

特別支援教育担当ステップアップ研修講座Ⅰ(前期)

東山地域交流センター
(R7.6.2)

本研修は、今年度、初めて特別支援教育担当になった先生方を対象に行われる研修です。(58名参加)
初めに一関市立南小学校の佐藤貴子指導教諭による自閉症・情緒障がい特別支援学級の授業をVTRで視聴しました。視聴を通して、教師側から指示をする場面と見守る場面のバランスを大切にすることや、個別の目標達成のための必然性をもった指導内容の設定、安心できる小集団で培った力を日常生活につなげる大切さについて学ぶことができました。
グループ協議では担当の障がい種別に分かれて、中核コーディネーターや特別支援学校の先生方にファシリテートしていただきながら普段抱える課題の解決の糸口を探りました。先生方の指導・支援について意見交流を行ったり、ファシリテーターの先生方から助言をいただいたりしながら、明日からの指導に生かせる様々な支援方法について理解を深めることができました。

【授業・研究級協議から学んだこと(研修者の感想より)】

- 児童の特性によって、課題解決をする際、困難さが予想されるときは「どうしたら活動できるか」という視点で支援を考えることが大切だと感じた。
- 板書で授業の流れを伝えるのがわかりやすく、見通しをもてる上に、授業が進むたびに花丸をつけていくので、達成感も得られて良いと感じた。
- なるべく少ない情報で指示を出していた点が印象に残った。指示が伝わりにくく、理解に困難さを覚える子どもが多いからこそ、丁寧に細かく指示を出してしまいがちだが、指示を少なくすることで、きちんと動いた様子があり、積極的に取り入れていきたいと思った。



【単元名「みんなで体を動かそう」(自立活動)】

【協議から学んだこと(研修者の感想より)】

- 自立活動の内容、45分の過ごし方を共有できてよかった。どうしても肩に力が入ってしまっていたが、まず活動があり、その中で児童に合うめあてを考えてみるという逆から考える方法を聞くことができた。
- 子どもが不安に思うところを自立活動で行っていく。自分の気持ちを言語化することや、子どもが「どうになりたいか」を確認し、そのためには何をするのかを自立活動で行っていくと良いと知った。
- 指導する前に、教師側も見通しをもって準備をする必要があると感じた。どこでその子がつまずくか、あらかじめ予想しておくことが必要であり、その重要性を改めて学ぶことができた。

講義『障がいの基本的理解と「個別的教育支援計画」の活用について』

(県南教育事務所 伊藤 奏子 特別支援教育エリアコーディネーター)

- 障がいは、個人の特性だけでなく、環境との相互作用によって生じる。環境を整えることで、子どもの力を発揮しやすくなり、活動や参加の幅が広がる。
- 特別支援教育は、知的発達の遅れがない発達障がいを含め、特別な支援を必要とするすべての子どもに対して、自立と社会参加に向けた主体的な取り組みを支援するものである。インクルーシブ教育では、学習への参加実感や達成感を得られる環境整備が重要であり、合理的配慮と自立活動の両面からの指導・支援が求められる。
- 早期からの一貫した支援のために、幼児期から卒業後までを見据えた「個別的教育支援計画」を作成し、関係機関と連携・情報共有を行う。その計画をもとに個別の教育的ニーズに応じた具体的な指導目標や支援の手立てを記載した「個別の指導計画」を作成し、活用する。
- 「個別的教育支援計画」は、指導に関わる大人の共通理解を促し、継続的な支援を可能にする記録である。最終的には、子ども自身が自己選択・自己決定し、目指す将来に向かって進む力を育むことが大切である。

● 講義『障がいの基本的理解と「個別的教育支援計画」の活用について』

本講義について、下記 URL または右記二次元コードから視聴することができます。
個別的教育支援計画の作成の際や、校内研等でご活用ください。

(令和8年3月末日まで視聴可能)

【動画 URL】 <https://youtu.be/gqMeaR-VPgs>

【資料 URL】

https://drive.google.com/drive/folders/1n5kZ5mcofbfGO6UfogiUYjlsbcy1G0v1?usp=drive_link



【動画二次元コード】



【資料二次元コード】